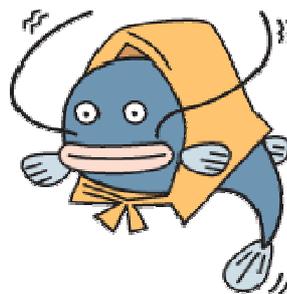


緊急地震速報 なますきん



マンスリー レポート
2008年4月号

発行元 株式会社 ハレックス

～～～ なますきんの働き (2008年3月) ～～～

【発信数概要】

緊急地震速報(予報)が45個の地震に対し発信され、総数は239通でした。平成18年8月に先行運用が始まってからの月平均データと比較しますと、地震数は80%程度、発信数は70%程度と、いずれも少なめでした。

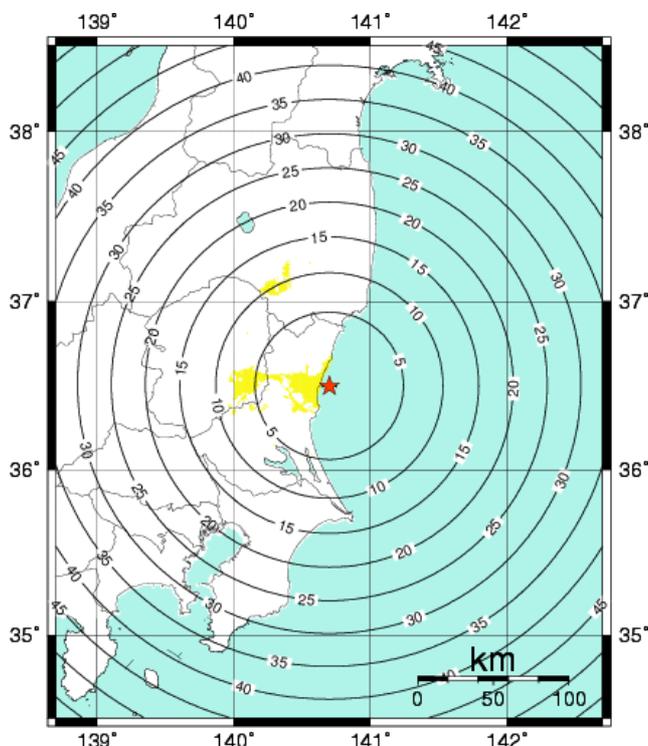
また、推定震度4以上と報じた地震数は3個と引き続き少なめでした。

【茨城県沖の地震】

8日01時54分57.1秒、茨城県北部にM5.2の地震が発生し、緊急地震速報(予報)が第8報まで発信されました。最も近い観測点で地震波が検知されたのは地震発生約9秒後で、第1報はその約5秒後に発表されました。

図は、第1報が発表された後、主要動が到達するまでの時間と震度4と推定された地域を黄色で示したものです。茨城県沿岸で震度4と推計された地域には、第1報発表とほぼ同時ないしは2～3秒後に主要動が到達してしまいましたが、栃木県や福島県内で震度4と推計された地域へ主

要動が到達するまでには7～十数秒だったことがわかります。



緊急地震速報第1報提供から主要動到達までの時間及び推計震度分布図(気象庁より)

震度4以上を発信または観測した地震(2008年3月)

日	時分	地域名	深さ (km)	マグニ チュード	速報 発信数	速報最大震度 (最終報震度)	観測最大震度 (地点数)
08	01:55	茨城県北部	57	M5.2	8	4(4)	4(24)
09	06:13	茨城県南部	47	M4.4	6	4(3)	3(10)
24	12:40	福島県沖	48	M5.3	9	4(3)	4(1)

5月の被害地震

発生日	発生年	北緯(度)	東経(度)	M	地震名または震央地名	死者数	最大震度
1日	昭和14年(1939年)	39.9	139.8	6.8	男鹿半島地震	27	5 **
9日	昭和49年(1974年)	34.6	138.8	6.9	伊豆半島沖地震	30	5 *
12日	明治33年(1900年)	38.7	141.1	7	宮城県北部		5 **
16日	昭和43年(1968年)	40.7	143.6	7.9	十勝沖地震	52	6 *
23日	大正14年(1925年)	35.6	134.8	6.8	北但馬地震	428	6 **
26日	昭和58年(1983年)	40.4	139.1	7.7	日本海中部地震	104	5 *

明治以降に死者・行方不明者を出した地震・津波および気象庁が命名した地震
 最大震度は、0、1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、7の10階級。【平成8年(1996年以降)】
 ただし、 * 0から7の8階級 【昭和24年(1949年)～平成8年(1966年)】
 ** 0から6の7階級 【明治31年(1898年)～昭和23年(1948年)】
 *** 微、弱、強、烈の4段階 【明治17年(1884年)～明治30年(1907年)】で、
 それぞれ現在の震度の1、2～3、4、5以上に相当

1. 伊豆半島沖地震

伊豆半島南端の石廊崎付近を震源とする陸域の浅い地震。

南伊豆町中木地区では城畑山の斜面が地滑りし、民家16戸埋没させた。石廊崎町から北西方向に長さ5.5kmの右ずれ断層が出現し、石廊崎では断層上の民家が破壊されました。

気象官署での最大震度は石廊崎での5でしたが、石廊崎を中心に関東地方から中部地方、紀伊半島にかけて震度1以上の有感となりました。

“なまずきん”によるシミュレーションでも伊

2. 日本海中部地震

秋田県沖約70kmの日本海東縁部に発生した大地震。死者104人の内100人が津波によるもので、港湾護岸工事中の41人、魚釣り中の人々18人の他、男鹿市加茂青砂の海岸で遠足中の小学生13人が犠牲になりました。

被害は秋田県で最も多く青森県、北海道がこれに次ぎました。木造建物の被害は、液状化による不同沈下や砂地盤斜面の崩壊によるものが多く、鉄筋コンクリート造りの建物にも亀裂やモルタルの剥離、コンクリートのひび割れなどが発生した。また、石油タンクの被害が目立ちました。

津波は日本海沿岸のソ連や韓国にも襲来し、韓国では死者1人、行方不明2人の人的被害も生じました。



豆半島では震度5強、5弱となることが示されています。

また、内陸型(直下型)の地震のため、震央付近の伊豆半島南部には緊急地震速報が発表される前に主要動が到達してしましますが、伊豆半島北部の震度5弱となる地域には主要動が到達するまでに数秒の余裕があるようです。

